

World Olefins & Polyolefins Plant Database

次世代ポリオレフィン総合研究 Vol.9 別冊

世界のオレフィン・ポリオレフィン

プラント要覧

2016 年版

2016 年 2 月

編著者 郷 茂夫

日本ポリオレフィン総合研究会

[www.sposi.gr.jp](http://www.sposi.gr.jp)

## 目次

	ページ
1. 世界の石化産業について	1
2. サウジの変化	1
3. エチレン, プロピレン, PE, PP プラント設備能力の世界集計	3
4. データベースの注釈と文献	7
5. ポリオレフィン重合触媒とプロセス技術の動向	sheet 1
6. オレフィン, ブタジエン合成技術の動向	sheet 3
7. 地域別, 国別のオレフィン, PE, PP プラント データベース	
日本 (Japan)	sheet 17
韓国と台湾 (Korea & Taiwan)	sheet 31
中国 (China)	sheet 44
東南アジア (South East Asia)	sheet 112
オセアニア (Oceania)	sheet 145
インド亜大陸(パキスタンを含む) (Indian Sub-Continent)	sheet 147
中東 (Mid East)	sheet 161
アフリカ (Africa)	sheet 201
西ヨーロッパ (Western Europe)	sheet 209
東ヨーロッパ(ギリシャ, トルコを含む) (Eastern Europe)	sheet 235
ロシア (Russia)	sheet 248
CIS東部(モンゴルを含む) (East CIS & Mongol)	sheet 265
北アメリカ (North America)	sheet 274
中, 南アメリカ(メキシコを含む) (South & Central America)	sheet 327
8. 後記	

## 1. 世界の石化産業について

2014年夏まで、原油価格は100ドル/bblを超えて、安定しているように見えた。中国の動向とシェールガスの供給過剰や世界経済が後押ししたのか、8月から原油価格は急速に低下しはじめ、2015年1Qで50-60ドル/bblとなり、その後一時踊り場があったが、それから再び低下しはじめ、今や(2016年2月)、30ドル/bblというような、もうずっと昔のこのようになっている。原油価格が高かった時に、北米発のシェールガスも勢いをつけていたが、こうした原油価格の凋落で、シェールガスの利益性とガス田開発意欲も少なからず萎んでしまったように見える。エネルギー価格として、むしろ、それが正常な状態なのだと認識すべきことかもしれないが。

このような状況は、また変わるかもしれないが、2015年は、世界の化学産業も、エネルギーと原料について大きな見直しを強いられた時期であり、石油化学の様々な計画も修正、再検討、中断を迫られたわけである。長い間、世界の汎用石油化学の雄であった、サウジアラビアもこの原油価格の低落で安閑としていられるわけではない。次項で、彼らの今の考え方を引用したので、参照願いたい。

しかしながら、石化原料として、ナフサ対シェール副生エタンでは差は縮小したというものの、依然後者は優位であり、さらに従来、特別な位置づけであったサウジのエチレンコストに大きな変節が見られる(次項参照)ことから、北米のシェール副生エタンベースのエチレン、ポリエチレンのコストが優位にあることは間違いないと思われる。

北米石化投資の「第二波」は動きがかなり鈍っていると言われ、原油価格動向、建設コスト、環境インパクト、人手不足などの影響を見ていると伝えられる。追従者の遅れは、北米のクラッカーとポリエチレン投資先行者にとっては好都合と思われ、完工に向けて悠々と邁進しているようである。2016年後半から新設設備が続々稼働を開始する。

一方、エタンフィードクラッカーが増えて、副生プロピレンが減るといわれるが、それに対応して、プロピレンは、PDH, CTO, MTPプラントが世界中に、言わば「無数に」建立してきており、プロピレンは、むしろ、しばらく供給過剰となる。すなわち、価格は低迷しそうだ。それはPPにとって、樹脂価格がどうなるかは別として、悪いことではない。

広い世界には、果敢に挑戦を試みる勢力も少なくない。石油化学産業の柱である、エチレン、プロピレンとポリエチレン、ポリプロピレンをとってみても、需要と生産の基本的な成長トレンドが縮小、後退したわけではない。本誌から、その世界動向を読み取っていただければ幸いである。

## 2. サウジの変化

幸か不幸か、原油価格の低落は、円レートの上昇があまり起きていない現状では、日本にとって好ましい状況でこそあれ、産油国のような深刻な打撃を我が国はこうむっていない。ガソリンや燃料価格が下がって好ましいと感じている人がほとんどであろう。

しかし、石油と汎用石油化学の雄とも言える中東サウジアラビアにとって状況全くは違う。サウジの現在の状況と今後の考え方について、以下にICIS文献より引用した。これを見ると石油化学の状況は様変わりであることがわかる。

以下に、ほぼ全文を日本語訳として掲載する。

「2016/1 ニュース: 2016年のサウジ政府の原料価格年度方針